

「自律」「共生」～学力向上 感動の創造 共有・一体感～

南部中学校だより

特別号 2022.10.18

令和4年度
全国学力・学習状況調査結果
4月19日(火)に全国の小学6年生と
中学3年生を対象に実施したものです。

今年度も生徒の学習状況の改善や、家庭教育との連携、教科指導の充実などに役立てるため全国の中学3年生を対象に『全国学力・学習状況調査』が実施されました。今年度は国語、数学、理科の各教科1時間ずつの筆記試験と、生活の状況等についての調査がありました。その結果から、本校生徒の学力・生活状況について特徴的な傾向を紹介し、今取り組んでいること、家庭や地域と連携したいことを報告します。

南部中生徒の「学力・生活の状況」

学力の状況

平均正答率(%)

国語	全体	言葉の特徴や 使い方に関する 事項	情報の扱い方 に関する事項	我が国の言語 文化に関する 事項	話すこと・聞 くこと	書くこと	読むこと
本校	71.0 %	71.1 %	60.0 %	76.7 %	66.7 %	60.0 %	73.3 %
県	68.0 %	71.1 %	44.6 %	69.8 %	63.5 %	44.6 %	66.1 %
全国	69.0 %	72.2 %	46.5 %	70.2 %	63.9 %	46.5 %	67.9 %

数学	全体	数と式	図形	関数	データの活用
本校	48.0 %	53.3 %	43.3 %	42.2 %	48.9 %
県	51.0 %	57.1 %	43.2 %	43.5 %	56.3 %
全国	51.4 %	57.4 %	43.6 %	43.6 %	57.1 %

理科	全体	エネルギー	粒子	生命	地球
本校	53.0 %	47.7 %	47.6 %	58.6 %	52.9 %
県	49.0 %	42.2 %	50.9 %	57.0 %	44.8 %
全国	49.3 %	41.9 %	50.9 %	57.9 %	44.3 %

問題の傾向としては、実際に「社会の中で生きる力」を測る問題が多く出題されています。

各教科ともに問題数は少ないですが、内容を的確に読み取り、出題者の意図をくみ取った上で、適切な用語を用いて表現する力を求める問題が多く出題されています。

国語担当より

全体として、各分野で全国平均を上回るか、ほとんど等しいレベルであるという結果となりました。

物語文の心情読解に関しては、情景描写や登場人物の行動から読み取ることがよくできますが、説明文に関して、論理の展開を捉えることに関しては弱い部分があります。文と文、段落と段落の関係に注意して読むことに力を入れていきます。

漢字に関しては、全国平均を下回っています。普段から積極的に使う習慣が少ない生徒が一定数おり、定着していないと考えられます。日頃から、分からない漢字があっても調べて使う習慣をつける必要があります。

記述式の問題に苦手意識があるようで、無解答率も全国平均を上回っています。記述式の問題は、しっかり文章を読み込むこと、問いが何を求めているのかを理解する必要があり、一朝一夕にはできるようにはなりません。日頃の授業から文章を読み込む習慣、何が問われているのか考える習慣をつけていきます。

国語の力はとにかく積み重ねが重要です。少し頑張っただけでは大きな変化は起きにくいので、授業を基本に根気強く学習を続けていきましょう。

数学担当より

全体として、県平均、全国平均より、正答率がやや低い結果となりました。領域別では、「図形」「関数」は全国平均とほぼ同程度ですが、「資料の活用」は正答率が低い結果となりました。評価の観点別では、「思考・判断・表現」に関する問題、出題形式別では、「記述式」の問題を苦手としていることがわかりました。

今後は、一つの事象に対して様々な式で表現ができることや、図形においても複数の方法で同じ結果が得られることに気づかせる場面などを設定した授業を大切にしていきます。また、関数では、事象の変化の様子について予測したり、実際のデータの特徴を分析したりする場面を設定し、表やグラフに表すことを通して、事象を理想化・単純化する活動をより多く取り入れていきます。さらに、無解答率を減らすために、「～を説明する」「～と考えた理由を書く」などの場面を増やし、文章で書いたり、説明したりする問題を最後まで書こうと努力する習慣をつけていきます。

理科担当より

全体として、鳥取県・全国よりも高い結果となりました。

問題別にみると、用語を答えたり、選択肢から選んだりするような問題は得意なようです。用語など基礎的な学習は身につけていると考えられます。

しかし、実験を計画したり、結果を分析して解釈したりする問題は苦手なようです。また、問題文を正しく理解して、グラフをつくったり、分析結果を説明したりするような問題も苦手なようです。知識を活用したり、実験結果を考察したりする力が不足していると考えられます。

これからは、授業の中で実験結果を分析・解釈するような取り組みや、探求の時間を設定することで、分析力や応用力を伸ばしていきます。また、自分の考えを発表する時間を増やすことで、科学的に考える力と、伝える力を伸ばしていきます。